

2013年もよろしくおねがいします

明けましておめでとうございます。

長崎大学 PHN 研究会（通称‘ぴかほし’）も発足 3 年目を迎えました。みなさん、今年もぴかほしへの活発な参加をよろしくお願いいたします！

第 4 回目のぴかほしは、昨年 12 月 1 日(土)に開催されました。師走だというのに県内外から 12 名の卒業生保健師が参加してくれました。今回も初参加の人を含め、学年も職場もバラバラです。保健学科の学び舎は変わりなく古いままですが、学年は違っても職場とは一味違う安心感があはるはず!?

今回も先輩後輩の垣根を越えた交流ができたようです。

卒業生保健師の活動報告

今回のぴかほしは卒業生保健師の活動報告会となりました。‘講師’は 4 回生 泉野里見さんと 6 回生 松藤由布子さんです。

泉野さんは、大村市で働く 4 年目の保健師です。今回は「保健師業務の振り返りと今後の課題」として、市の直轄包括支援センターでの業務の振り返りと、自分自身の課題について発表してくれました。包括支援センターでの主な保健師業務は、困難事例への対応や虐待、権利擁護を含む総合相談です。相談業務件数のグラフや相談事例を紹介しながら、大村市の傾向や保健師の具体的な対応、また、最近の取り組みとして高齢者サロンづくりについても紹介してくれました。

泉野さんの今後の課題は、母子や成人など様々な健康課題を抱えている人へ「ライフステージを通じた健康支援ができる力を持ちたい」「個別の関わりや健診結果等のデータをまとめ、地域の特性や食文化等との関係性や今後の課題を分析していく力を身につけたい」「専門職以外にも伝えられるコミュニケーションを

現役保健師ふたりの発表を、同年代の卒業生も真剣に聞いていました。



磨きたい！」など、保健師として更に力をつけていきたいという前向きで頼もしいものでした。

松藤さんは、長与町で働く 2 年目の保健師です。今回は主担当である健康づくりに関する業務の振り返り、住民さんのパワーに圧倒される地区組織活動への支援について発表してくれました。特に健康づくり推進員は、15 年の歴史をもつ男性会員中心の地区組織です。その活動の広がりや課題、今後の展望について話してくれました。

地区組織活動を担当する松藤さんが大切にしたいことは‘一人ひとりと丁寧に向き合う’‘コミュニケーションをとる’‘機会をとらえて動く’‘自分の願いを持つ’でした。担当保健師としての自分の願いとは、「健康づくりの輪が、1 人から 2 人に、グループに、町全体に広がっていくような場所になってほしい」です。松藤さんが新人保健師ながら住民の中に飛び込んで、真剣に向き合い、関わっていることがよく伝わる発表でした。保健師としての成長がよく分かります。

今回の発表にあたり、二人とも業務外の時間を使って準備をしてくれました。自分の業務をあらためて振りかえり、他者へ伝えるためにまとめ、スライドを作成し、プレゼンテーションを行うということは、大変な作業だったと思います。二人の発表は大変わかりやすく、また、保健師としての情熱も感じられるものでした。ありがとうございました！



参加者の近況報告

★これは保健師の仕事なの？

重点事業の住民データ、3000人分のデータ入力に追われています…と3年目保健師。必要な作業ということは分かるけど、入力作業は本当に保健師がしなくちゃならないの？他にもすることがあるのではないだろうか、他にどうすれば効率的に仕事ができるか葛藤した末に、先輩や同僚に甘えられるようになり、協力して効率性を目指そうと努力しているそうです。

包括支援センターでケアプラン作成に追われる日々、私はケアマネージャーなのか？と悩んだ1年目保健師。上司に相談したところ、「プランを立てるだけでなく、生活を見ていくのが仕事なんだよ」と言われて考えが変わったそうです。

★最近扱いが変わってきたような…

同じ部署で3年目の保健師…今年になり、周囲の自分に対する接し方が変わってきたように感じるそうです。成長と自立を促され、自覚しながらの仕事は、難しさもあるようですが、どちらかという「生き生き、のびのび」しているように見えますよ？

★保健師のコミュニケーションは看護師と違う！

今回、発表で「他職種へ伝わるコミュニケーションがしたい」と話してくれた泉野さんに共感する人が多くいました。保健師の仕事は、どの職場にいてもほとんどが他職種、他機関の人と行いますから、より強く感じるようですね。

看護師を経ての1年目保健師は、1回しか会えない対象者や関係者への対応について、保健師のコミュニケーションは特別だ、と感じるそうです。様々な立場、背景をもった人との「1回」ですから、その重みを感じるのでしょうか。

★1年目からの災害支援

今年は大雨による水害もありました。1年目保健師は、母子担当の保健師になりながら、もっとも印象に残っている仕事は「河川の土のう作り」

と話してくれました。頑張りましたね！今後、被災者への生活調査を行うそうです。

・大学院科目等履修生 制度のご紹介

長崎大学大学院では、開設する授業科目を履修する「科目等履修生」制度があります。これは、修士課程や博士課程の講義を科目ごとに履修することのできる制度です。

たとえば、修士課程保健学専攻の「ヘルスプロモーション特論」等の科目（7-8回開講）を履修し、単位取得するものです。取得できた単位は、長崎大学大学院に進学した場合には既取得単位として認められます。

大学院への進学を考えている方、大学院の講義を受けてみたい方、専門的な勉強をしたいと考えている方にはお勧めです。科目については、長崎大学大学院の（修士課程）保健学専攻ホームページをご覧ください。また、ぴかほし事務局、保健学科広域看護学講座の教員までご連絡ください。



次回の**第5回長崎大学 PHN 研究会**は、長崎県公衆衛生研究会 自由集会において開催します。

日時 3月8日（金）
17:00～18:30（予定）

場所 長崎大学医学部ポンペ会館

長崎県公衆衛生研究会では、講演会や県内の公衆衛生に関する研究等の発表も行われます。ぜひご参加ください。

同封の案内状も御覧ください！
皆さんに会えるのを楽しみにしています。

広域看護学講座ホームページ
<http://www.am.nagasaki-u.ac.jp/kouiki-kango/index.html>



長崎大学 PHN 研究会 事務局

住所 〒852-8520 長崎県長崎市坂本1-7-1 長崎大学医学部保健学科（川崎涼子）

電話番号：(095) 819-7952

FAX：(095) 819-7952

電子メール アドレス：rkawasak@nagasaki-u.ac.jp